

水の流れの不思議さを知る
刈谷市立富士松南保育園（愛知県刈谷市）

【3歳児】

実践1 「川が出来たよ」

7月下旬

ペットボトルで作った容器を持ってタライの周りに集まり、遊んでいた時に、子どもたちが汲み出す水がこぼれ、地面を水が流れはじめる。M児がその後（水）を追って、水の流れる道に沿って歩いて行き、また戻って来る。保育者も同じように歩いてみるとM児が顔を上げ「川だよ」と笑う。「川が出来ちゃったね。どんどん水が流れてくるね」と言いながら何度か水の流れる道をM児と一緒に行き来していると、他児も集まって来た。

「川だよ」とうれしそうに他児に知らせるM児。T児が「ここにやっつい？」とペットボトルに汲んだ水を流れる途中に流しこむ。流れてくる水をみて「わぁ、また来た！」と声が上がると、その声に反応するようにT児は、また水を汲みに走っていく。

水遊びが進むうちに違う場所でも水が流れ出した。乾いた地面をじわりじわり水が流れていく。「あっ、こっちも川！」と叫び駆け寄るK児。水を追いかけるように地面を踏みしめていく。A児とU児がペットボトルに水をくみ運んでくる。K児の足元に水をかけると水が流れ、川がどんどん出来ていく。「もう一回！」「もっと！」とタライの所へ水を汲みに走って戻り、また流す。K児は地面を進む水の先頭に立ち、水と共に進んで行くことを楽しんでいるようだ。側溝まで来た。側溝の蓋の隙間から水が流れ落ちていく。水を運んでいた子たちは、続けて何度も水を運び、流れの中の好きな所から流し入れている。その内にA児がボソッと言った。

「何であっちには行かないのかな？」「そうだね、あっちには行かないね。何でかな」と言葉を返し、水の流れをしばらく一緒にながめていた。A児は「行ってくる」とタライの所へまた水を汲みに戻って行った。

<考察>

水の感触を味わうことをねらいに水遊びの環境を整え、活動を進めていた時、の姿から、M児が偶然水の流れを発見したことに気付いた。こちらが意図的に用意したこととは違うが、遊びの中で子どもが気付き興味を持ったことを、のように保育者が言葉や態度（同じように取り組んでみた）で共感的に受け止めたことで、「すごい！」「もっと！」というような他児の興味にも広がっていったと考える。同じ水遊びの場においても、一人一人の子どもの興味、楽しんでいることは様々であることを子どもの姿から感じる。子どもが他児の姿から刺激を受けたり、まねて同じようにしてみたりすることからも、更なる子どもの興味、気付き（関心）につながっていくことを、改めて感じさせられた。子どもの興味を持っていることを見逃さず、遊ぶ中で「何でかな？」「どうしてこうなるのかな？」「こうしたらどうなるのかな？」と子ども自身が気付き、興味を持って繰り返し試していける環境作り、保育者の援助の大切さを実感した。

子どもが自分の発見を友達に知らせ、「うれしい」「すごい」の気持ちを伝えた。そこから、仲間が集まり活動が展開したことで、更に水は他へ流れ始め、子どもたちは水の不思議さを知ることになった。

保育者が子どもの活動をよく見、偶然に発見したことを見逃さず、共感して遊びを楽しむことで、更に「知りたい」「やりたい」という子どもの意欲につながっていることが言える。



実践2 「もっと水を入れよう！」

8月中旬

タライの周りでダイナミックに水を汲み出し、遊んでいると園庭に水の通り道（川）が出来ていく。水の流れに沿って歩いてみながら、足で水や泥の感触を楽しむ姿が見られる。その中で、水が流れてくるのを手で堰き止めようとする姿があったので、かまぼこ板を用意した。Y児が、流れてくる水を両手で止めるようにしているところへ「これを使ったらどうなるかな」とかまぼこ板を見せ、水の流れを遮断するように置いてみる。「私も」とかまぼこ板を手にし、同じように置くY児。横へ横へと並べていたが、水が思うように堰き止められず、困ったように表情を曇らせる。そこで、Y児の置いた板からつなげて板で囲って見せた。水がみるみる溜まり、隙間からチョロチョロ流れ出る。Y児は「あっ」と声をあげ「こっち、次こっち。出ちゃうよ」と板を置いていく。

そこに「お水入れてあげる」とM児が水を運んできた。M児が囲ってある水たまりに勢いよく水を流し入れると、勢いで板が倒れ、一気に水が流れ出した。「キャ～」「ワァ～」と歓声上がる。水の流れにのって板が流れていく。「船だ！」と喜ぶが、すぐに止まった。「止まっちゃったね。何でかな？」と声をかけると、「水が少ないからじゃない。ぼくお水持ってくる」M児は水を汲みに走って行った。保育者の方を見ていたY児と目が合う。「壊れちゃった、もう一回やる」と言いながら、また板を並べていく。「何それ？」と興味をもった他児が「私も」と板を並べ出した。隣へ隣へと並べていく他児の様子をみながら、M児は板が倒れないよう手で抑えている。他児が板を取ろうとすると「まだ！」と遮る。水が溜まって端からちょろちょろあふれだした。Y児が溜まった水の中に板を浮かべ「船だもん」とニコニコする。M児が、ちょろちょろ流れ出る水を見て「ああ、出ちゃう出ちゃう」と叫ぶと「私がとる」とY児が堰き止めていた板をとった。ざあっと水が流れ出すのと一緒に浮かべていた板が流れる。「わぁっ、船だぞ」と喜ぶY児。板が止まると「もう一回やる」とY児も板で囲んで水の流れを堰き止め始めた。

<考察>

遊びの中で、水の動き（流れ）に興味を持っていると感じ、その流れを手や足で堰き止めようとする姿があったので、たくさんのかまぼこ板を用意し、 のように働きかけてみた。板で囲って水を溜めたり、流れる道を作る中で水を流したり、堰き止めたりすることを楽しませようとねらっていたが、 のようにM児が水を勢いよく流し入れたことで、 の板が水に浮かび、流れる水と共に進むことを発見した。その発見から続けて、遊んでいく中で、 のように投げかけ、自分なりに考えたり試したりして、みるにつなげるようにかかわっていったことで、さらに遊びが盛り上がったと考える。



子どもが自分なりに繰り返し試していく中で、少しずつ水の力で板が動いていく。自分のやったことの結果が、板が動くという目に見える形で表れることが、さらに子どもの興味をかきたてるのではないかと感じた。

みどころ

砂場で水を流して遊ぶ姿は、よく見られます。この事例から、砂の様子、水の流れの様子、水を流す時の勢い、流し方など、3歳児なりに興味をもった場面に注目し、子どもたちが様々なことを感じ取って遊んでいる姿が伝わってきます。そして、砂や水だけでなく、組み合わせて使う遊具・教材によって、不思議や疑問、気付きや発見など経験している内容が違ってくるのが分かります。